

国際広報メディア専攻

平成 21 年度
後 期

国際広報メディア専攻

日本語論述

13 : 30～15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚ある。
- 3 解答用紙（25字×40行=1000字）は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～3 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語
(横書き) で解答しなさい。

【問題 1】

ますます国際化・グローバル化されている中で、国も一つの企業のようにブランドが必要になっている。「日本の文化力」「日本の技術力」の世界発信をはかり「日本ブランド」を確立する動きが国家レベルで本格化しつつある。あなたは国(どの国では構わない)のブランド構築責任者であると仮定して、あなた自身が考える「国ブランド」の定義や必要性和広報戦略を具体的に論じなさい。予算上の制約などは考えずに自由に論じなさい。

【問題 2】

出会い系サイト、自殺サイト、学校裏サイトなどの横行に対して、政府でも有害サイトを規制すべきではないかという声が高まり、政府の教育再生会議、総務省、警察庁、各政党などでの検討が進められ、規制法案も複数提出されている。これに対して、インターネット側からの強い反発が生じ、対立する状態となっている。自分の視点から、有害情報とはどのようなものを定義し、規制が必要であればどのような規制が望ましいかということについて考えるところを述べなさい。

【問題 3】

近年、日本国内では日本語を母語としない人々が増えている。それに伴い、日本の義務教育機関にも日本語を母語としない外国人児童・生徒が増え、様々な問題や対応に迫られている。そのような外国人児童・生徒の言語発達を考慮した言語教育とはどうあるべきか、どのようなことに留意すべきか、論じなさい。